

# 日本本土メディアが描いた米軍占領下沖縄 「NHKアーカイブス」音声資料の分析から（2017） Okinawa under U.S. forces occupation drawn by Japanese media (2017)

◎大城 由希江<sup>1</sup>  
Yukie, OSHIRO

<sup>1</sup> 神戸大学大学院国際文化学研究所 Graduate School of Intercultural studies, Kobe University

**要旨**…本報告の目的は、1969年に制作、放送されたNHKラジオドラマ『七ヶ月のパスポート』の事例分析を通じて、米軍占領下沖縄の状況が同時代日本メディアでいかに描かれたか、メディア表象の一端を明らかにすることである。従来のメディア表象をめぐる研究における主な分析対象は、新聞記事やテレビ番組であった。一方でラジオ番組の分析はこれからの課題である。したがって本報告は、ラジオ番組を読み解くという点で戦後沖縄研究における表象研究分野の新たな試みでもある。

**キーワード** 戦後沖縄と日本、米軍占領、NHKアーカイブス、ラジオ番組、メディア表象

## 1. 研究目的と課題

本報告の目的は、沖縄米軍占領期における日本社会内部の沖縄報道の様相を、メディアの沖縄表象に注目して明らかにすることである。換言すれば、米軍占領下沖縄の状況が同時代日本社会でいかに伝えられたかについて、メディア報道の内容に踏み込んで資料実証的に明らかにすることを目的とする。

占領下沖縄の状況は、同時代の日本本土メディアでいかに報道されていたか。この問いについてこれまでの戦後沖縄研究が主に注目してきたのは、1955年1月の「朝日報道」における米軍占領批判であった。「朝日報道」とは、1955年1月13日付『朝日新聞』社会面の特集「米軍の『沖縄民政』を衝く」に始まり、約1ヶ月にわたり展開された沖縄問題報道キャンペーンである。「朝日報道」は沖縄の実態を初めて内外に知らしめたとして、戦後史叙述で扱われるキーワードの一つとなっている<sup>1</sup>。一方、「朝日報道」以外では、沖縄をめぐる報道や言説が同時代の日本本土メディアでいかに扱われていたかに関する研究は扱う時期と対象ともにごく限られてきたと言える。例えば、沖縄返還前後の日本本土のテレビ番組における沖縄関係番組を、日本人の沖縄に対するまなざしとして「沖縄イメージ」という観点から読み解く研究はあるが、ことラジオなど音声メディアに関しては、限られてると言えるだろう<sup>2</sup>。当該期の日本本土メディアの「沖縄イメージ」や「沖縄表象」に関しては、これまで主にテレビ番組の事例分析が行われている[多田治 2008]、[杉本久未子 2014]。一方、占領期沖縄をめぐるのは、ラジオ番組は管見の限り分析対象となっていない。先行研究を踏まえ本報告ではラジオ番組を分析対象とし、当時の政治社会状況と番組内容を相互に考察してメディア表象の実態を明らかにしていく。

## 2. 研究対象と分析視角

### (1) 「NHKアーカイブス」について

「NHKアーカイブス」は、NHKが制作した番組および番組素材をデジタル化し保存したもので、NHKの社員が今後の番組制作の参考資料として活用することを目的として構築された社内向けのデータベースである。NHKでは「放送は文化である」という基本理念のもとに1980年以降意識的に番組の保存が進められ、2003年に設立されたのがこの「NHKアーカイブス」である<sup>3</sup>。2014年現在、約64万7000本の番組、196万8000本のニュース項目、104万2000本の番組台本が保存されている<sup>4</sup>。他方で、NHKでは放送文化の普及の手立てとし、一般公開を目的として全国58カ所に閲覧ブースが設置されている「番組公開ライブラリー」や、インターネット公開の「NHK オンデマンド」を運用している。これらの一般公開向けデータベースとは異なり、「NHKアーカイブス」

ブス」では、原則すべてのアーカイブスの閲覧が可能な点が特徴的である。先述のとおり「MK アーカイブス」は通常 NHK 職員向けの内部アーカイブスであるが、研究者向け公募「学術研究トライアル」に採択されると資料閲覧の機会を得ることができる。発表者は 2016 年度第一回公募の採択を受け資料調査に取り組んだ。番組公開の一環として開始された研究者向け事業では、原則すべてのアーカイブスの閲覧が可能である。

## (2) 沖縄関係音声資料と本報告における分析視角

本報告では NHK の番組データベース「NK アーカイブス」に保存されている沖縄関係音声資料を分析する。発表者の調査では、沖縄占領期中に沖縄をテーマとした NHK ラジオ番組として、データベース上で 57 件を確認した（〈表 1〉参照）。この中から、本報告では『七ヶ月のパスポート』というタイトルのラジオドラマを紹介する。

分析視角としては、作品の内容を当時の政治社会状況と突き合わせながら読み解くことで、聴き手の日本国民に対して沖縄問題をいかに描き出そうとしているか、作品の制作意図を検討する。番組の内容分析に基づいて、公共放送である NHK の沖縄表象の実態を具体的に検証していく。

## 3. ラジオドラマ『七ヶ月のパスポート』で描かれた「沖縄」

ラジオドラマ『七ヶ月のパスポート』（以下、作品）は、1969 年の文化の日に特別番組として NHK 総合から放送された。この作品は同年の文化庁芸術祭参加作品でもある<sup>5</sup>。はじめに、作品の概要を紹介しておきたい。主人公は東京の工事現場で働く

出稼ぎ労働者、タテツセイシン。彼は沖縄本島北部今帰仁村なきじんそんの農民で、故郷には身重の妻と 9 人の子どもたちを残している。

ストーリーはセイシンの東京生活の様子を軸に、セイシンが自身の置かれた現状を説明しつつ、お互いを思いやることで苦しい現状を乗り越えようとする、家族間の手紙のやりとりを交えながら展開していく（〈表 2〉参照）。全体的なテーマは、当時の沖縄が置かれた政治社会背景を説明しつつ沖縄零細農家の生活のリアリティーを描くといったものだ。本報告では、作品の特徴を以下 3 点指摘する。

### (1) 主人公が農民であること

1 点目に、主人公が「基地の街」の住人でも基地従業員でもない、一農村の大黒柱であることが特長的である。例えば、発表者は「NK アーカイブス」でラジオ音声番組のほか、同時期の NHK テレビ番組も多数視聴したが、沖縄を題材とする場合には、「基地の街」として代表的なコザの問題や、沖縄の若者の本土就職に焦点を当てた番組が多くを占めていた。テレビ番組では、米軍を相手とする売春婦、日常的な農耕のために許可証を提示し基地を出入りする農耕民や基地で働く基地労働者といった基地とともに生きざるをえない住民の姿、そして沖縄女性と駐留米兵男性との間に出生した子供たち等、「基地」があるがゆえの「現実」がトピックとなる。他方、今回の報告で紹介する作品のように、日常生活の中で米軍との接触が比較的に少ない北部農民にスポットが当てられるのはまれであった。例えば、ドラマ中の語りでは次のように説明される。

沖縄本島今帰仁村天底部落は、那覇から北に 80 キロ、東シナ海に突き出した北部半島にある…一戸あたりの平均農業収入  
およそ 600 ドル、21 万 6 千円。これでは生活費の 60% しかならない。天底部落は都会からも軍用地からも遠い、基地に依  
存することもできない<sup>7</sup>

つまり作品は、「沖縄住民と米軍基地」という従来の語り口ではなく、家庭を持った農民という聴き手にもイメージが得やすい題材により、沖縄問題を局地的な問題という理解から切り離し、聴き手に同調を促す意図があったと考えられる。

### (2) 沖縄理解への促進

2 点目に、沖縄が置かれた地位状況の説明が作品に散りばめられていることが指摘できる。例えば、東京の港に到着したセイシン達は、入国と税関審査、検疫を受ける義務を持つ外国人として扱われる。東京生活では車の左側通行に気を配り、円で稼いだ給料はドルに交換され家族のもとへ送金される。例として挙げるならば作品中では以下ようになる。

（語り）検疫、入国審査を済ませた彼らは、アメリカ民政府高等弁務官が発行したパスポートを示して、税関検査を受ける

（税関係員）パスポートを見せてください、酒タバコお土産類はありますか、車通行気をつけて

（語り）日本の円の紙幣。タテツさんたちにとっては使いつけない異国の金だ。この円を留守家族に送金するためにはドルに変えなければならない

このように作品では日本と沖縄の暮らしや制度の違いが繰り返し強調され社会背景の説明が加えられることで、聴き手の沖縄理解を補完していると考えられる。

(3)政治的課題の表象の仕方

3点目に、沖縄戦を語る戦争体験者の声や、帰属問題に関する沖縄住民の願望が作品に多数挿入されることで、聴き手に対して沖縄の政治的な問題への関心を促していると言える。なかでも、最後の場面でセイシンを含め出稼ぎ人達は「早く復帰したい」、「日本人として生きたい」と主張するが、日本復帰願望を強く訴えるシーンに時間が割かれている。他方でこの時期、沖縄内部では反復帰論や、復帰自体には賛成ながらもその条件には疑問を呈する住民も多数存在した。したがって、そうした世論状況と比するならば、作品では反復帰論を取り上げずに一日も早い日本復帰があたかも沖縄住民の総意として示されていることが特長的である。

4. おわりに

本報告で得られた知見は2点にまとめられる。第一に、日米政府間の交渉で沖縄の日本復帰が正式決定する渦中で、復帰への理解と沖縄への関心を促す意図を持ったメディア報道が行われた実態を作品分析を通して具体的に明らかにした点である。第二に、作品では沖縄問題に関する様々な見識を普く紹介するのではなく、すなわち復帰反対論者の声は抹消され、日本復帰が沖縄住民の総意として提示されるという、沖縄表象における内容的なバイアスを確認した点である。

〈表1〉年次別・沖縄をテーマとするNHKラジオ番組の一覧

年	件数	番組タイトル例
1952	2	『番組交換(沖縄)-子供の歌』、『録音トピックス(素材) ヘルシンキオリンピックを担当するアナウンサーの座談会』
1953	2	『事件・事象-日本の防衛(1)(2)』、『生活・風俗・民俗-てらくぐち・沖縄伊平屋島』
1955	2	『民謡-沖縄県『醜童(シュンドウ)節』ほか』、『民謡-沖縄県『かぎやで風節』ほか』
1956	2	『番組交換(沖縄)-子供の歌「てんさぐの歌」等6曲』、『録音ハイライト1956年』
1957	1	『番組交換(沖縄)-沖縄の子供の歌「耳切り坊主」等8曲』
1958	1	『正月特集-わらべ唄で綴るお正月』
1959	2	『正月特集-わらべ唄で綴るお正月』、『民謡-第4回全国民謡舞踊まつり』
1960	3	『正月特集-「わらべ歌でつづるお正月」』、『事件・事象-日本の防衛(5)(6)』、『のど自慢素人演芸会-沖縄』
1961	1	『青年の主張-第7回NHK青年の主張コンクール全国大会』
1962	2	『正月特集-わらべうたでつづるお正月』、『青年の主張-全国コンクール-第8回全国コンクール全国大会』
1963	3	『わらべうたでつづるお正月-全国各地のわらべ歌』、『NHK青年の主張-全国コンクール-第9回全国コンクール全国大会』
1964	5	『NHK全国学校音楽コンクール-昭和39年度全国唱歌ラジオコンクール全国コンクール-中学校の部』、『NHKシンフォニーホール-山雄三 沖縄民謡によるラプソディー(初演)』
1965	1	『NHK全国学校音楽コンクール-合奏の部-小学校の部』
1966	7	『芸術劇場-「沖縄の星」森崎和江』、『ニュース特集-きょうの国会-外交防衛-ベトナム問題関係の録音集成(1)』
1967	4	『第20回NHKのど自慢全国コンクール-「沖縄地方大会」』、『ゆく年くる年-第1部ゆく年風景第2部除夜の鐘第3部初詣』
1968	4	『ふるさとの歌まつり-沖縄放送協会開局記念』、『NHK全国学校音楽コンクール-昭和43年度全国コンクール-高等学校の部』
1969	5	『七ヶ月のパスポート』、『文化講演会-「沖縄の文化を惜しむ」』、『録音ハイライト1969年』
1970	6	『ふるさとの歌まつり』、『全国戦没者追悼式-式典実況』、『ステレオドラマ-「多良間しょんかお考」山田隆之』
1971	2	『録音ハイライト1971年』、『ゆく年くる年-第1部除夜の鐘 第2部グローバルゆく年 第3部あなたの新年』
1972	2	『特別番組「沖縄復帰」-沖縄復帰記念式典(政府主催)中継』、『特別番組 沖縄県発足式典-新沖縄県発足式典(県主催)中継』

(2016年3月～5月に「NHKアーカイブス」で実施した調査を基に作成。字数の都合により番組タイトルは一部のみ記述。)

〈表2〉『七ヶ月のパスポート』の作品概要

放送日時	1969年11月2日/21:30-22:00
制作関係者	構成演出：川野楠己 技術：佐藤登喜雄 効果：川崎清 語り：伊藤鏡二
登場人物	語り手、タテツセイシン、タテツチエ、タテツ家の子供達、季節労働者(セイシンの同僚)、沖縄戦体験者
背景音	港の様子、税関、鳥や動物の鳴き声、街の騒音、工事現場の作業音、農耕の作業音、銀行、三味線音楽、島唄、エイサー音楽、飛行機の爆撃音、口笛、台風を伝えるテレビ?ラジオ?のニュース音声
音響効果	夫にあてた手紙を読むチエの声→(チエとセイシンの声が徐々に重ねられる)→妻からの手紙を読むセイシンの声
場面構成	妻宛の手紙を読むセイシン→夫宛の手紙を読むチエ→オープニング→東京東京に到着したセイシン、税関の様子、工事に従事するセイシン(出稼ぎに出ることになった背景を語り手が説明)→沖縄父へ宛てた手紙を読む子供達→東京給料の支給、ドル交

換・送付、生活費について語るセイシン→社会背景	沖縄戦の体験語り→沖縄	夫宛の手紙を読むチエ→東京	チエからの手紙を読むセイシン→沖縄	夫宛の手紙を読むチエ→東京	沖縄での農業について語るセイシン→沖縄	父宛の手紙を読む子供→東京	セイシンや他の沖縄出身労働者、沖縄の置かれた現状について語る→東京&沖縄	セイシンとチエの電話の様子
-------------------------	-------------	---------------	-------------------	---------------	---------------------	---------------	--------------------------------------	---------------

(「NHKアーカイブス」で実施した調査及び書誌調査を基に作成。)

## 補注

- 1 「朝日報道」のまとまった研究としては以下を参照のこと。仲本和彦「ロジャー・N・ボールドウィンと島ぐるみ闘争」『沖縄県公文書館研究紀要』16 (2014年)
- 2 「沖縄イメージ」に関する研究には次のものがある。多田治『沖縄イメージの誕生 青い海のカルチュラル・スタディーズ』(東洋経済新報社, 2004年)、多田治『沖縄イメージを旅する 柳田国男から移住ブームまで』(中央公論社, 2008年)、本浜秀彦「国家イベントにおける『海』の表象と視覚の政治学-沖縄海洋博をめぐる映像とミュージアムの中の『記憶』と『忘却』」『沖縄キリスト教大学院大学論集』5 (2008年)、尾鍋拓美「『ひめゆり』はどのように表象されてきたか-創成期の『ひめゆり』表象を中心に」『沖縄文化』42(2) (2009年)、杉本久未子「テレビが構築する沖縄イメージ-復帰前後の番組に見るシーンと語りの関係から-」『大阪人間科学大学紀要』13 (2014年)
- 3 江原学「『NHKアーカイブス』の概要と課題」『映像情報メディア学会誌』61 (2007年) p.1567
- 4 伊藤守「テレビ番組アーカイブを活用した映像研究の可能性 分析方法・手法の再検討に向けて」『社会学評論』65-4 (2014年) p.542
- 5 登場人物や内容を含め実在のモデルの有無については現在調査中である。
- 6 期間を限定し (1945-1972)、キーワードを「沖縄」に検索した結果 74 件を視聴し確認したが、内容的に沖縄に関係のないものを除いた結果、全体数を 57 件と判別した。
- 7 発表者が音声を視聴し、文字起こしを行ったデータによる。

## 参考文献

- 1) 日本放送協会編『ラジオ年鑑』1948-1951年版、『NHK年鑑』1952-973年版 日本放送協会出版会。
- 2) 日本放送協会編 1951『日本放送史』日本放送協会。
- 3) 沖縄朝日新聞社編 1953『沖縄大観』日本通信社。
- 4) 沖縄市町村長会編 1955『地方自治七周年記念誌』沖縄市町村長会。
- 5) 日本放送協会放送史編集室編 1965『日本放送史』上・下・別巻 日本放送出版協会。
- 6) 琉球放送企画部編 1965『琉球放送十年誌』琉球放送。
- 7) 沖縄郵政管理事務所編 1974『琉球郵政事業史』丸正印刷社。
- 8) 文化庁文化庁芸術課編 1976『芸術祭三十年史』文化庁。
- 9) 沖縄放送協会資料保存研究会編 1982『沖縄放送協会史』沖縄放送協会資料保存研究会。
- 10) 宮城悦二郎 1994『沖縄・戦後放送史』ひるぎ社。
- 11) 文化庁監修 1995『戦後日本の芸術文化史：芸術祭五十年』ぎょうせい。
- 12) 川平朝申 1997『終戦後の沖縄文化行政史』月刊沖縄社。
- 13) 日本放送協会編 2001『20世紀放送史』上・下・年表 日本放送出版協会。
- 14) 多田治 2004『沖縄イメージの誕生 青い海のカルチュラル・スタディーズ』東洋経済新報社。
- 15) 多田治 2008『沖縄イメージを旅する 柳田国男から移住ブームまで』中央公論社。
- 16) 琉球放送株式会社50年史編集委員会編 2005『琉球放送50年史-琉球放送五十周年記念-』琉球放送。
- 17) 江原学 2007「『NHKアーカイブス』の概要と課題」『映像情報メディア学会誌』61。
- 18) 本浜秀彦 2008「国家イベントにおける『海』の表象と視覚の政治学-沖縄海洋博をめぐる映像とミュージアムの中の『記憶』と『忘却』」『沖縄キリスト教大学院大学論集』5。
- 19) 尾鍋拓美 2009「『ひめゆり』はどのように表象されてきたか-創成期の『ひめゆり』表象を中心に」『沖縄文化』42(2)。
- 20) 七沢潔 2011「記録された沖縄の本土復帰-『同化』と『異化』のはざままで」『放送メディア研究』8。
- 21) 船戸修一・武田俊輔・祐成保志・矢野晋吾・市田知子・山泰幸 2012「テレビの中の農業・農村：NHK『明るい農村(村の記録)』を例として」『村落社会研究ジャーナル』37。
- 22) NHK 沖縄放送局史編集事務局編 2012『NHK 沖縄放送局史-NHK・NHK70年のあゆみ-』NHK 沖縄放送局。
- 23) 伊藤守 2014「テレビ番組アーカイブを活用した映像研究の可能性 分析方法・手法の再検討に向けて」『社会学評論』65-4。
- 24) 加藤裕治・船戸修一・武田俊輔・祐成保志 2014「NHK『明るい農村(村の記録)』制作過程と「農・農村」へのまなざしの変容：番組制作者に対する聞き取り調査をもとに」『マス・コミュニケーション研究』85。
- 25) 杉本久未子 2014「テレビが構築する沖縄イメージ」『大阪人間科学大学紀要』31。

- 26) 武田俊輔・船戸修一・祐成保志・加藤裕治 2014 「戦後ラジオ・テレビ放送における「農村」表象のプロセス：媒介者としてのNHK農林水産通信員に注目して」『年報社会学論集』27.
- 27) 仲本和彦 2014 「ロジャー・N・ボールドウィンと島ぐるみ闘争」『沖縄県公文書館研究紀要』16.